

報道関係者各位

ウィズセキュア、WithSecure™ Cloud Protection for Salesforce 向けに 年内に日本にデータセンターを開設

～ ISMAP 基準に準拠し、日本のデータレジデンシーとコンプライアンスのニーズに対応 ～

2024年10月29日
ウィズセキュア株式会社

先進的サイバーセキュリティテクノロジーのプロバイダーである WithSecure (本社: フィンランド・ヘルシンキ、以下、ウィズセキュア) は本年内に日本に新しいデータ処理拠点を開設し、日本の Salesforce ユーザー向けのデータ保管機能を拡張することを発表しました。この新しいデータセンターは、アメリカ、EU (アイルランド)、オーストラリア、シンガポールの既存のデータセンターに追加されるものであり、同社の日本におけるエンタープライズクラスの Salesforce セキュリティに対する取り組みを強化するものです。

データレジデンシーは特に金融や公共部門など、規制の厳しい分野で事業を展開する企業のサイバーセキュリティ戦略においてクリティカルだといえます。ウィズセキュアが日本に設置する新しいデータセンターは、日本での事業展開を拡大し、日本のお客様が厳しいデータレジデンシー要件を満たすものです。ウィズセキュアはまた、情報システムセキュリティ管理および評価プログラム (ISMAP) 基準などの要件を満たすことで、日本のコンプライアンス要求の厳格化に対応します。

現在、データレジデンシーコントロールは、ウィズセキュアの Salesforce セキュリティサービスで利用できます。WithSecure™ Cloud Protection for Salesforce (以下、CPSF) を使用すると、顧客は責任共有モデルで定義されている Salesforce のセキュリティ義務を満たすことができます。ネイティブに統合されたアプリケーションは、ファイルや URL などの送受信データをスキャンすることで、Salesforce 上でランサムウェアやフィッシングなどのサイバー脅威をリアルタイムで阻止します。このソリューションは数分での導入が可能であり、Salesforce の運用は中断されず、カスタマイズにも影響しません。これが、世界中で 200 を超える企業や公共部門の組織が CPSF を使用しており、Salesforce が推奨するセキュリティソリューションである理由です。

ウィズセキュアの日本法人で CPSF のセールスディレクターを務める渡邊建人 (わたなべ たけひと) は、次のように述べています。

「組織は国や地域のデータ保護規制を遵守しつつ時代を先取り、そしてビジネスを成長させていきたいと考えています。多くのお客様にとって、Salesforce のセキュリティデータを処理する場所を選択できることは、コンプライアンスの問題を解決するだけでなく、提供するサービスのパフォーマンスを向上させ、顧客との信頼関係を構築し、セキュリティの強化にもつながるものです。」

日本における Salesforce のデータレジデンシーが重要な理由:

●日本におけるローカルデータレジデンシー:

厳格なデータレジデンシー要件を満たし、Salesforce アプリケーションのパフォーマンスを最適化します。新しいデータセンターではローカルでのデータ処理が可能になり、日本で生成および使用されるデータが国内にとどまるようになります。これは、政府や公共部門など、厳格なデータ処理規制の対象となる業界や組織にとって特に有益です。

●信頼の強化:

データレジデンシーとコンプライアンスへの取り組みを示すことで、ステークホルダーと顧客の間で信頼と安心が生まれます。

●**競争上の優位性:**

機密情報の安全な取り扱いとプライバシー標準への準拠に重点を置くことで、組織は市場で競争上の優位性を獲得できます。

●**パフォーマンスと速度の向上:**

データをローカルで処理することで、組織はアプリの応答性の向上とデータ処理機能の高速化が期待でき、速度とユーザーエクスペリエンスが向上します。

●**アプリ内設定が簡単:**

WithSecure™ Cloud Protection for Salesforce では、データ処理場所を選択するためのシンプルな設定が提供されます。管理者は、アプリケーション内で直接、希望するデータ処理場所を簡単に選択できるため、変化するニーズに合わせて迅速に調整できます。

ウィズセキュアは、安全かつコンプライアンスに準拠したデータ処理を最優先に考え、すべての顧客データが最高のセキュリティおよびコンプライアンス基準に従って管理されるようにしています。ウィズセキュアのグローバルなデータセンターネットワークは、Salesforce の堅牢なセキュリティを提供するだけでなく、機密データや規制対象データを扱う重要な業界の要件もサポートしています。Salesforce を信頼できるクラウドプラットフォームとして活用するうえで、当該国／地域の標準および規制の遵守が非常に重要となります。

ウィズセキュアのアジアパシフィック地域 CPSF セールス担当のバイスプレジデントである Jussi Ware (ユシ・ウェア) はデータレジデンシーと規制について、以下のようにコメントしています。

「多くの国がデータを重要なリソースとみなし始めており、その処理方法と保護方法を規制しています。組織には実用的なソリューションが必要です。組織が戦略的な目標の追求に気を取られることなく、これらのセキュリティ要件においてメリットを享受するためのサポートの提供、それが当社とパートナー様の責任であり、私たちが日々遂行していることなのです。」

WithSecure Cloud Protection for Salesforce の詳細は、以下のページをご覧ください。

<https://cloudprotection.withsecure.com/>

ウィズセキュア Web サイト:

<https://www.withsecure.com/jp-ja/>

ウィズセキュアプレスページ:

<https://www.withsecure.com/jp-ja/whats-new/pressroom>

WithSecure™について

ウィズセキュアは、多くのヨーロッパ企業に選ばれるサイバーセキュリティパートナーです。世界中の IT サービスプロバイダー、MSSP、ユーザー企業から、中堅・中小企業を保護するアウトカム(成果)ベースのサイバーセキュリティソリューションにおいて大きな信頼を勝ち取っています。ウィズセキュアはヨーロッパにおけるデータ保護の規制に準拠し、プライバシー、データ主権、コンプライアンスに注力しています。

当社は 35 年以上の経験を持ち、ユーザー企業の消極的／保守的なサイバーセキュリティ対策から積極的／先進的なアプローチへのパラダイムシフトのサポートのためのポートフォリオを持っています。ウィズセキュアはパートナーとの協力的な成長へのコミットメントに基づく柔軟な商業モデルを提供し、ダイナミックなサイバーセキュリティの世界において両者の成功を保証します。

ウィズセキュアの最先端のポートフォリオの中心となるのは、AI を搭載したテクノロジー、人の専門知識、コ・セキュリティ (共同セキュリティ) サービスをシームレスに統合する Elements Cloud です。さらに、エンドポイントおよびクラウドの保護、脅威の検出と対応、エクスポート管理にまたがるモジュール式の機能により、中堅・中小企業ユーザーのセキュリティ対策を強固なものとしします。



1988年に設立されたウィズセキュアは本社をフィンランド・ヘルシンキに、日本法人であるウィズセキュア株式会社を東京都港区に置いています。また、NASDAQ ヘルシンキに上場しています。詳細は www.withsecure.com をご覧ください。また、X (旧 Twitter) アカウント @WithSecure_JP https://twitter.com/WithSecure_JP でも情報の発信をおこなっています。